

2013年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 2月一般入学試験

(表象領域)

問題1は選択問題であるが、問題2は全員が解答すること。

問題2は全10題のうち5題を自由に選択して解答すること。

解答する際の文字数は特に制限しないが、解答用紙の表面に問題1の解答が、裏面に問題2の解答が収まるようにしなさい。

問題1 次の選択問題A・Bから、いずれかを選択して解答せよ。

選択問題A 次の文章を読んで、設問(a)～(c)に答えなさい。

許諾あり・WEB転載あり

二〇世紀のデザインは、それまでとはまったく異なった展開がなされた。それは新しい技術の開発・導入、政治・経済、そして社会システムの変化を背景にしていた。それは民主主義的な社会、加えて消費社会への変化によって出現したデザインである。一言でいえば、二〇世紀のデザインは、近代社会の出現によって提案されたデザインということになる。

そうしたデザインは、一九世紀つまり近代社会の黎明期に準備されたといえる。二〇世紀のデザイン、つまり近代(モダン)デザインは、いくつかの特徴を持っている。

まず第一に、予算だて、つまり「経済的計画」を前提にしたエンジニアリングがすすんだ。また、そのことによる大量生産を前提としたデザインが確立した。

第二に、デザインによって人々の生活様式を新たなものにする提案を行った。

第三に「普遍的＝ユニヴァーサル」あるいは「インターナショナル」なデザインを生み出そうとした。

そして第四に「消費への欲望を喚起する」デザインを実践した。

(出典：柏木博『デザインの教科書』、講談社、46頁、2011年、一部字句を改変)

- (a) 著者が指摘する「四つの特徴」に対応する近代デザインの事例(作品例)をそれぞれあげなさい。解答の際には、第一から第四までのどの特徴に該当する事例(作品例)なのかを明示すること。
- (b) 二〇世紀のデザイン(モダン・デザイン)がわれわれにもたらしてきた功罪(恩恵および弊害)とはどのようなものであったか。両面を区分して、それぞれについて考えるところを書きなさい。
- (c) 二〇世紀のデザインの功罪を考慮したとき、二一世紀にはどのようなデザインが望まれるか。自身の見解を述べなさい。

選択問題B 次の文章を読んで、設問 (a) ~ (c) に答えなさい。

許諾がないためWEBでは公開していません。窓口閲覧のみです。

(註) ドイツの哲学者ユルゲン・ハーバーマス (1929-)。

(出典: ジャン=フランソワ・リオタール『ポスト・モダンの条件』、小林康夫訳、星雲社、7-11 頁、1986 年、一部字句を改変)

問題2 次の語句について説明しなさい。全10題のうち5題を自由に選択して答えること。文字数は特に制限しないが、それぞれについて必要十分な記述を行うこと。ただし5題分の解答が解答用紙の裏面に収まらなくてはならない。

- (a) アウトサイダー・アート
- (b) ギャル男
- (c) アーキテクチャー (ローレンス・レッシング)
- (d) リゾーム (ジル・ドゥルーズ)
- (e) アウラの消滅 (ヴァルター・ベンヤミン)
- (f) クールジャパン
- (g) 対話型美術鑑賞
- (h) クィア・スタディーズ
- (i) パブリック・アート
- (j) ユーザー・インターフェース

特に許諾の必要はない部分